

新しい保育

厚生省保育課

副島ハマ

1

この頃、保母先生方とお話ししますと必らず「自由保育」とか「新しい保育」とか仰る言葉が、耳に残ります。そして、そのお話の後で、何故だか、心の中に、何か雲のように氣にかゝるものが残るのです。で、新しい保育について、この頃考えていることをお話し致しましょう。

先だつて或講習會の後で、長い間保育の道に専念して居られる一人の先生が、「自由保育、自由保育と、流行のように云うけれど、自由保育つて、何も特に新しい保育ぢやありませんね。二十年前の保育と大差ないぢやありませんか」と仰言いました。なるほど、暫くの戦争の年を除いて、ずつと以前から、今行われている自由保育を實際に行つて居られる幼稚園、保育所は澤山ありました。

そうです。眞實なものには、舊きも新しきもありません。新しいと云われる自由保育も、今日急にほつかり浮び上つた

ものでもなければ、隣の庭のものを、急に移しかえたものでもありません。たゆみなく続けられた先輩諸先生の御研究と又黙々として歩み續けた現場の保母先生方の御苦勞が、新しい保育を生み、又生み出そうとしているのです。

2

戦後のわが保育界は、學校教育法、兒童福祉法などの公布によつて、幼稚園、保育所が法的に公認されると共に、保實の面でも大きな轉換が行われ、尙行われつつあるのです。りますが、それらの軸を動かして下さつた倉橋先生初め城戸坂元、山下、三木その他の諸先生の御功績は、まことに偉大なものであり、私共の感謝に堪えないところであります。

と、同時に、現在實際保育にたづさわる保母先生方、又保母養成に當る先生方にお願ひ致したいことは、理論にはやつて行き過ぎたり、自分の信念なくして、他人の説のまゝに新奇を試みて、保育界ににごりを残すことなく、唯々厳しい毎

日の反省を続けつつ、たゆまない保育道への精進を続けて頂きたいことで、これこそ、諸先生諸先輩にお報いする道であると思ひます。

3

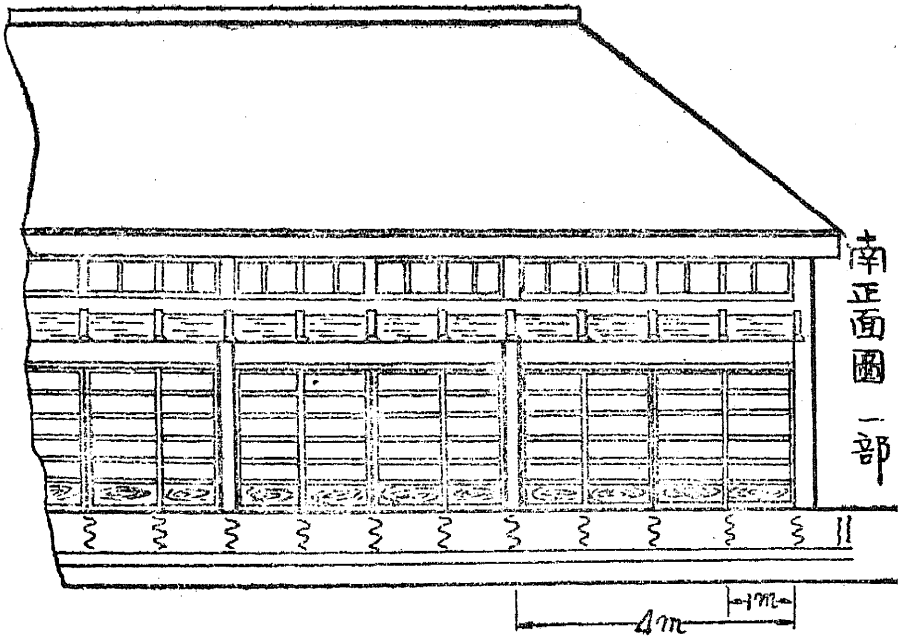
先日、或會合で、自由保育について話が出たのですが、その時「自由保育が良いことだから、子供に自由をさせているのですが、或る子供が、好きなおかずだからと云つて幼稚園に來たら直ぐお辨當を食べたりします。それで良いでしょうか」とか、「自由保育つて樂でいいですわ。何時參觀人が見えても、私の園は自由保育をしていますと云えば、子供たちがざわつ、ついでいても、一應辯解が成り立つんですもの」とか、「自由保育になつてから、保育案を作らなくてよくなつて、樂で助かりますわ」と云う保母先生方の聲を聞きました。

「幼児の教育」をお読み下さる方々に、今更自由保育の説明を致すまでもないと思ひますが、自由保育というのは、放縱保育ではなく、保母先生が樂をするような保育でもありません。保育される、即ち保育活動をする子供たち自身の自由な、楽しい活動が行われる保育をいうのであります。保母先生方はそのために、適當な環境を作つたり、暗示を與えたりする大切な仕事があるのであります。新しい保育の表面的なこと、即ち保育形態のみを考え、實際保育の内面的な反省がないということが、こういう言葉が發せられる結果を生むのであります。

それでは、新しい保育の目標は何でありましょうか。それは、最初に申上げましたように、ほつかり浮び出るものではなく、本質的な永遠な理想がなければなりません。それは子供たちに、民主主義的な生活原理を把握させて、自律自由で個性的な人間であると同時に、社會的連帶と統制に従う社會人を作ることでもあります。

こうした理想を實現するためには、毎日の保育が、今までのように、ともすれば形式的な枠の中で、勘をたよりにして行う非科學的な、或は又、隨性に流れた無氣力な保育では到底駄目なのであります。そこで、新しい保育が考えられなければならなくなるのです。それでは、新しい保育課程は、どうして計畫さるべきでしょうか。

隣の庭の花が奇麗であるからと云つて、咲いた花の株をそのまゝ、自分の家の庭に移し植れば、色々な點で無理が生じます。自分の家の庭の土質を知り、その花の性質や、栽培法を知ることが、先決問題であります。保母先生方は、先づ、現在の施設と設備と、保母先生方の能力を、如何にして生かし合つたら良いかということを考え合せ、現在の環境に足ることを置いて、カリキュラムが立案され、實際保育が行われることを、理想實現の手早い道であるのであります。(三〇頁へ)



南正面圖 一部

(二六頁より)ですから、新しい保育に伴う新しいカリキュラムの立て方は、智識や技術を主としたものを項目別に上げるのではなく、その前に、先づ自分の受持つている子供の實際生活調査をして、子供たちの身體の發達、知的發達、情緒的發達、社會的發達など調査して、子供たちの概観をつかみ、幼稚園、保育所、又家庭などの生活環境や社會環境などの、外的條件と、それに保育内容の性格や價值などを考え合せて、カリキュラムが作らるべきであると思います。

新しい保育への轉換は、掌をかえすように、急激に出来るものではありません。山の雪が何時の間にか溶け、日増しに暖かになり、草が萌え出づるように、自然に行われるものと私は思います。

新しい保育とは、保母先生方の、その現場における毎日の實踐保育の反省の中に自然に生れ出づるものであります。即ち、保母先生方が、永遠に變らない保育の目標を旨指して毎日の保育を反省しつゝ實踐なさる所に、雄大な保育史の轉換が行われつつあるのです。

今年は西曆一九五〇年、子供の世紀と云われる二十世紀も早、半になん／＼とされています。遅ればせながら、私達も重大な、保育史の轉換期に生れ合せ、保育の仕事にたゞさわるものとして、大いに新しい保育への精進を続けましょう。保母先生方の、毎日の保育への反省が、明日の新しい保育を生み出すのです。御自重を祈ります。(厚生事務官)